

**授業概要**

永い人類の歴史の中で、富も名声もすべて得ることができた人間が最後に望むこと、それは「不老不死」であるが、残念ながらどんな人間にも必ず「死」が訪れることは避けられない。しかしながら、人類は挑戦を続け、平均寿命はすでに80歳以上まで達成でき、最高齢の人間の寿命はほぼ120歳まで可能となり、まもなく人生100年時代が到来しようとしている。様々なイノベーションを続け「不老不死」に挑戦する最先端のビジネスの現状について知識を深められるよう指導する。また、本演習を通して、人間理解や先端ビジネスについて、自らの考えをしっかりと表現し、他者の考えについても共感できるように指導する。

**授業計画**

第1回	不老不死ビジネスとは？
第2回	アメリカシリコンバレーでの挑戦
第3回	人間とは？生とは？死とは？
第4回	長寿研究の現状
第5回	最先端ビジネス
第6回	未来思考で物事を考える
第7回	トランスヒューマニズム
第8回	アンチエイジング・ビジネス
第9回	人工知能
第10回	フレイル予防
第11回	再生医療
第12回	ゲノム医療
第13回	予防医学
第14回	様々な健康ビジネス
第15回	まとめ
第16回	試験

**到達目標**

- ・文章を読みこなすことができる。
- ・しっかりした文章を書くことができる。
- ・物事を創造的に考えることができる。
- ・自分の考えをしっかりと表現できる。
- ・相手の考えに理解を深めることができる。
- ・不老不死ビジネスについて説明できる。

**履修上の注意**

まずは大学生活に慣れることが重要なので、休まず積極的に参加すること。

**予習復習**

事前に单元ごとに教科書をよく読んで、1時間程度予習してくることと、終了した单元を1時間程度復習すること。

**評価方法**

発表点（25点）、レポート点（25点）、学期末試験（50点）

**テキスト**

教科書名：不老不死ビジネス—シリコンバレーの静かなる熱狂  
 著者名：チップウォルター著/関谷冬華訳  
 出版社名：日経BPマーケティング  
 出版年：2021年（ISBN：978-4863135048）

**授業概要**

これから本学で4年間学ぶにあたって最初に勉強することが重要であると思われる経済の基礎を学びます。これらの知識は、実社会では常識ですので、大学の早い段階で修得しておくことが望まれます。この演習では、基本的にはゼミ生全員が毎回指定された教科書の箇所を前もって読んできて、事前に決められた担当のゼミ生が報告資料を作成、配布したうえで発表し、その内容について全員で議論する形で、進めていきます。したがって、本演習では事前準備や当日の議論などを通じて、大学における勉学の進め方の基本を修得することができると思います。

**授業計画**

第 1 回	経済経営学部で勉強すること
第 2 回	私たちは商品を購入することで何を得ているの？
第 3 回	モノの値段はどうやって決まるの？
第 4 回	ダイヤモンドが高価なのはなぜ？
第 5 回	そもそも企業は何のために存在しているの？
第 6 回	企業はどんなときに一番儲かるの？
第 7 回	完全競争市場・独占市場・寡占市場とは何なの？
第 8 回	「政府」はどのような役割を果たしているの？
第 9 回	「GDP」って何？何がわかるの？
第 10 回	どうして消費税はアップし続けるの？
第 11 回	年金制度のどこが問題なの？
第 12 回	「貨幣」の役割って何？
第 13 回	金融機関は何をしているの？
第 14 回	「インフレ」、「デフレ」って何？どちらも悪いことなの？
第 15 回	「円高」、「円安」って何？
第 16 回	課題レポートの提出

**到達目標**

- 経済に関する基本的な概念を、適切に理解できる。
- 経済学とはどのような学問であるのかについて、概要を把握できる。
- 報告資料の作り方を学び、各回の授業において事前に作成できるようになる。
- プレゼンテーションの手法を学び、各回の授業で適切にできるようになる。
- ディスカッションのやり方を学び、各回の授業において効果的にできるようになる。

**履修上の注意**

大学生活に慣れていくために、教養演習 I での経験は極めて重要です。資料の作成、発表、議論などの基本を春学期の間に是非習得しましょう。また、毎回出席することも当然必要ですので、その習慣をきちんと身につけましょう。

**予習・復習**

発表担当者は事前にその資料を準備するとともに、全員がテキストの指定された箇所を事前に読んで理解し、各回のゼミ終了後に内容を復習することが必要です。

**評価方法**

担当個所の発表 40%、各回のテーマに関する意見表明 30%、課題レポート 30%。

**テキスト**

- ・教科書名：『サクッとわかるビジネス教養 経済学』
- ・著者名：井堀 利宏
- ・出版社名：新星出版社
- ・出版年月：2022年11月 ISBN：978-4-405-12018-1 本体 1,300円＋税

**授業概要**

大学では、既存の知識を身につけるだけでなく、世の中にあふれる情報を精査し、整理し、問題を発見し、さらにその問題を解決する方法を見出して、自分なりの結論を導き、それを人に効果的に伝えられるようになることが期待されています。本講義では、そのひとつひとつの作業に関わる技術を、なるべくわかりやすく説明します。具体的には、レポート・論文の作成、研究調査と研究発表の実施に直接的に役立つ内容をあつかいます。

**授業計画**

第 1 回	アカデミック・スキルズとは①
第 2 回	アカデミック・スキルズとは②
第 3 回	講義を聞いてノートをとる
第 4 回	情報収集の基礎①
第 5 回	情報収集の基礎②
第 6 回	本を読む①
第 7 回	本を読む②
第 8 回	情報整理①
第 9 回	情報整理②
第 10 回	研究成果の発表①
第 11 回	研究成果の発表②
第 12 回	プレゼンテーション（口頭発表）のやり方
第 13 回	論文・レポートをまとめる
第 14 回	プレゼンテーションの実践①
第 15 回	プレゼンテーションの実践②
第 16 回	レポートの提出

**到達目標**

- ①アカデミック・スキルズとは何か、説明できる。
- ②情報収集・情報整理ができる。
- ③自分が発見した問題を、情報・データをもとに自分なりの結論を導き、それを人に効果的に伝えられるようになる。

**履修上の注意**

- ①遅刻・欠席はなるべくしないでください。
- ②演習という少人数の環境なので、積極的に自分の考えを発言してください。

**予習・復習**

- ①予習は、テキストの次回の講義の該当箇所を読んで、レジュメ（要約とコメント）を作成してください。
- ②復習は、演習中に新たに出てきた専門用語や理論など、再度調べて理解を深めるようにしてください。

**評価方法**

- ①毎回提出のレジュメの内容を評価します。50%
- ②第 14 回、第 15 回に実施するプレゼンテーションを評価します。20%
- ③レポートの提出を評価します。30%

**テキスト**

- ・教科書名：アカデミック・スキルズ 第 3 版
- ・著者名：佐藤望 編著
- ・出版社名：慶應義塾大学出版会
- ・出版年 (ISBN)：2020 年 (978-4766426564)

**授業概要**

本教養演習では、2年次以降から本格的に始まる経済学や経営学の勉強に備えて、「経済」とは何か、「経営」とは何か、について考える場を提供したい。そのために一番良い方法は、経済新聞を読むことであろう。経済新聞には、前日までに発生した経済の動きが迅速に報道されており、またそれまでに発生した経済上の事件に関して簡単な解説も掲載されている。

また、証券市場が開設された翌日には、その市場での取引の様子を株式欄を見ることで経済の状況を知ることができる。どうせ就職活動を始めるところには、経済新聞を読みこなしていなければならないので、1年次の段階でどのように経済新聞を読みこなすべきか、について知っておいたほうが良いように思う。

**授業計画**

第 1 回	はじめに（本演習の進め方）
第 2 回	経済新聞の歴史をたどる
第 3 回	経済新聞に掲載されている記事とは何か
第 4 回	自分の興味のある産業の記事を読んでみよう
第 5 回	実物取引（金や石油）の記事はどこにあるか
第 6 回	経済新聞における文化欄の役割
第 7 回	経済新聞に掲載される小説の特徴
第 8 回	株式欄の読み方（1）
第 9 回	株式欄の読み方（2）
第 10 回	株式欄の読み方（3）
第 11 回	株式会社とは
第 12 回	経済において株式市場が重要なわけ
第 13 回	どのような会社の株が良い株なのか（1）
第 14 回	どのような会社の株が良い株なのか（2）
第 15 回	株式市場の発展に果たした経済新聞の役割
第 16 回	試験

**到達目標**

本演習の目的は、経済新聞を読みこなすことによって、経済や会社がどのような原理や原則で動いているか、について知る能力を蓄えることである。知りたい情報が経済新聞のどの部分に書かれているのか、を理解できたら目標は達成されたといえる。

**履修上の注意**

経済新聞を自宅ですべて持っている人は、その新聞を持ってきてもらいたい。自宅ですべて持っていない人は、駅売りのその日の経済新聞を買って持ってきてもらいたい。

**予習・復習**

経済新聞をよく読むこと。できれば自宅ですべてもらい、毎日目を通せば、十分な予習と復習になる。

**評価方法**

毎回の授業で受講者に多く質問をするので、それに的確に答えられるかどうか、で判断する。また、節目節目で小テストをすることも考えられる。

**テキスト**

その日の経済新聞を持ってきてもらいたい。どの経済新聞であるかは、問わない。ただし、私は一番よく読まれている経済新聞を持参するので、同じものであれば理解はしやすいものと思われる。

**授業概要**

社会人基礎力養成の前提となることを講義し、訓練します。

(1)私たちは、どの世界で活動する場合においても、次の①から③のような思考及び実行の過程を繰り返して、目標（夢）実現に立ち向かいます。①ある特定の「目標」実現に向けて「問題点」を発見し、②その問題点を解決するために情報等を「収集」し、「分析」し、「検討」し、最も妥当な根拠のある解決策を「判断（決定）」し、③その解決策を、最も効率的効果・効果的な方法で「実行」する。

(2)以上の目的を達成するには、考える力・判断する力・実行する力等が必要ですので、佐藤正勝ゼミのゼミ訓（「なぜ？なぜ？なぜ？」、「だから何だっつうの？」など。←謎めていますね。楽しみにしててください。）を実践し、4年間を通じて、これらの力(社会人基礎力)等を養います。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス（自己紹介、授業の進め方全般、配付資料等の説明）
第 2 回	アイスブレイキング
第 3 回	社会人基礎力の前提：佐藤正勝ゼミルール・ブックの内容の説明
第 4 回	社会人基礎力の前提：『世の中は、全て、ルールでできている！』
第 5 回	全ての（判断の）前提には、「目的」がある！
第 6 回	基礎力の前提①：元気・挨拶・声掛け・雑談・感謝を！
第 7 回	基礎力の前提②：話ができるには！①：原則
第 8 回	基礎力の前提③：話ができるには！②：質問されて答えられないときは？
第 9 回	基礎力の前提④：やるべきことができなかつた・失敗した！では、どうする？
第 10 回	基礎力の前提⑤：文字で記憶するのは NG! 記憶は絵、図、ベン図等です！
第 11 回	マンダラチャート初歩
第 12 回	社会常識の初歩
第 13 回	仕事処理能力養成の初歩
第 14 回	私たちの未来社会とは：基礎編
第 15 回	まとめ
第 16 回	期末レポートの提出

**到達目標**

- 1 生活と学修の規律を守ることができる。
- 2 （佐藤ゼミ独自の）マンダラ・チャートを作成することができる。
- 3 人との対話を、スムーズに行うことができる。
- 4 毎日検定等の用語(社会常識)について、本質を踏まえた絵、図、ベン図を書くことができる。
- 5 社会人としての仕事処理能力養成のためのSPⅠのうち基礎的問題を解くことができる。

**履修上の注意**

- 1 授業には、毎回出席すること。会社員になってからの欠勤は、失職につながります。そんなことのないように、今から準備をする意味で、ゼミだけは、1日も欠席しないという1年間にして下さい。
- 2 宿題の提出及び提出期限も厳守です。なぜなら、社会人になったら、上司の指示に遅れて仕事をするなど、ないように、今から練習しておくのが目的です。
- 3 自分の頭で考えるという作業を意識して学習して下さい。授業で説明されたことを、理解し、訓練し、実行するという一連の行動により、思考力・判断力が鍛えられます。

**予習・復習**

予習・復習は、宿題の実行、授業内容の徹底的な「理解・訓練・実行」を徹底して下さい。これらのための学習時間は、90分の授業1回につき、合計4時間とすることが、文科省の基準です。

**評価方法**

期末レポートへの配点が40%、宿題提出・発表の有無(注)、その内容の良しあし等への配点等が60%です。  
 (注)「宿題の提出・発表」は、基礎演習の単位を取得するための最重要事項です。

**テキスト**

- ・教科書名：なし（授業で独自資料を配布します）

**授業概要**

本演習では、大学でどんなことを学ぶかしっかり目標を持つこと、学ぶ楽しさを知ること、及び、読むこと調べること、書くこと、報告することなど今後の就学に必要なスキルを修得できるよう心掛ける。大学では自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つことが大事である。本演習に参加することで、学ぶことの意味を各々が考え、有意義な大学生活が過ごせるようにして欲しい。

**授業計画**

第 1 回	大学生活に慣れる①（自己紹介の文章作成報告、履修計画の作成）
第 2 回	大学生活に慣れる②（大学での授業のあり方や規則、大学のホームページの利用）
第 3 回	授業の受け方を体得する①（ノートのとおり方、テキストの読み方）
第 4 回	授業の受け方を体得する②（レポートの作成法）
第 5 回	大学で学ぶ意味を考える（大学での目標、学力調査）
第 6 回	企業について知り、意見をまとめる①（企業経営やプロジェクト運営、意見の報告）
第 7 回	企業について知り、意見をまとめる②（企業経営やプロジェクト運営、意見の報告）
第 8 回	時事問題を読み、自分の意見を文章にまとめる①（主要な時事問題、論者の意見をまとめる）
第 9 回	時事問題を読み、自分の意見を文章にまとめる②（新聞の社説等を使って、自分の意見をまとめる）
第 10 回	わからない事項を調べる（図書館ツアーの実施、ネット検索などの方法）
第 11 回	意見を発表し、討論する①（関心のあるテーマを調べ、レジュメにして作成し、報告する）
第 12 回	意見を発表し、討論する②（関心のあるテーマを調べ、レジュメにして作成し、報告する）
第 13 回	自分の将来について考える①（自分の適性を知り、将来の進路について考える）
第 14 回	自分の将来について考える②（自分の適性を知り、将来の進路について考える）
第 15 回	自分の将来について考える③（自分の適性を知り、将来の進路について考える）
第 16 回	総括

**到達目標**

- ・自分の課題について調べ、意見をまとめ、表現することができる。
- ・政治や経済の時事問題が企業人・社会人にとって不可欠の問題であることを知ることができる。
- ・大学での学び方を体得することができる。

**履修上の注意**

1年次の学生は全員履修である。この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかり持つことにある。このため、よく調べて自分の意見をまとめ、授業時間内には仲間同士で積極的に議論してほしい。なお、学外活動を行う場合がある。

予習・復習は積極的に行い、授業中に指示された課題は必ず提出すること。

**予習・復習**

事前に指示した事項について調べ、翌週に答えられるような形で予習・復習に取り組むこと。

**評価方法**

授業への取り組み、課題の提出状況、レポート等により評価する。

評価の目安：課題提出 60%、レポート等 30%、その他 10%

**テキスト**

- ・教科書名：
- ・著者名：
- ・出版社名：
- ・出版年 (ISBN)：

**授業概要**

情報社会で暮らす私たちは、コンピューター、特にパーソナルコンピューター（PC）を読み書きの能力（リテラシー）と同等に使いこなす能力が求められている。本演習では、情報リテラシーの基礎（特に Word と Excel）が身に付くよう指導すると同時に、現代社会の諸問題の中から人口問題を取り上げ、当該問題を客観的に捉えることができるよう指導する。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス 授業概要と評価方法
第 2 回	履修計画を立てる 時間割表の作成
第 3 回	PC で文字入力 タッチタイピング
第 4 回	文章作成 段落を作る
第 5 回	ノートの取り方 参照と引用
第 6 回	紙の新聞を読む 時間がないときの読み方と時間があるときの読み方の実践
第 7 回	日本の人口構成（現在）を調べる
第 8 回	Excel による人口ピラミッド（現在）のグラフの作成
第 9 回	日本の人口構成（過去）を調べる
第 10 回	Excel による人口ピラミッド（過去）のグラフの作成
第 11 回	日本の人口構成（将来）を調べる
第 12 回	Excel による人口ピラミッド（将来）のグラフの作成
第 13 回	日本における人口構成の変化を分析する
第 14 回	日本社会は何によってどのような問題が起こるのかをまとめる
第 15 回	課題レポートの体裁について 序論・本論・結論の 3 段構成など
第 16 回	

**到達目標**

- ・ PC を読み書きと同程度に使いこなすことができる。
- ・ 日本社会の現状や課題を客観的に捉えることができる。

**履修上の注意**

この授業は、PBL（Project Based Learning）を積極的に用い、学生間での意見交換を重視し参加型の演習を行う。また、通常の学内教室以外で授業（学外授業）を実施する場合がある。なお、遅刻 3 回で欠席 1 回分にカウントする。授業において特別講師等を外部から招聘する場合がある。

必要なら初歩的レベルから丁寧に解説をしていくので、基礎知識がなくてもやる気さえあれば十分な能力を身につけられるように指導します。

**予習・復習**

タッチタイピングの練習を事前に行うこと。講義で学習した内容を講義後にまとめる（保存しておく）こと。

**評価方法**

課題レポート 100% で評価する。また、毎回出席を取る。

**テキスト**

特に指定はしないが、その都度推奨図書や参考図書を紹介し、その他必要に応じて、HP 等からのデータ引用を行う。

**授業概要**

この演習は、「大学とは?」「大学生とは?」という2つの疑問について学び、大学生活の基礎を作ることを目的に指導をします。高校までの勉強と大学での学問の探求は全く異なるものです。この演習を通して、大学で学問を探究する方法を知ることを中心に、より良い大学生活を過ごすための基礎を作る時間にできればと考えています。

具体的には、最初に「そもそも大学とはどんな場所なのか」ということを考え、その後具体的なスキルや方法について扱っていきます。その中で、参加者同士で発表し議論することにより、他者との意見交換の方法も学んでいきます。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション
第2回	高校と大学の違い
第3回	ノートの取り方
第4回	テキストの読み方①
第5回	テキストの読み方②
第6回	レポートの書き方①
第7回	レポートの書き方②
第8回	資料の探し方
第9回	大学図書館の使い方
第10回	ゼミ発表の仕方①
第11回	ゼミ発表の仕方②
第12回	大学の試験と評価
第13回	参加者による発表と議論①
第14回	参加者による発表と議論②
第15回	まとめ
第16回	レポートの提出

**到達目標**

本演習は、以下の3点を到達目標とします。

- (1) 「大学とはどんな場所か」を他者に説明できる。
- (2) 大学生活を送る上で必要となる基礎的なスキルを使うことができる。
- (3) 自分の意見を発表し、他者と建設的な議論ができる。

**履修上の注意**

- ・この演習は松原も含め参加者全員で議論し、理解を深め合います。毎回必ず出席してください。やむを得ず欠席（または遅刻）する場合は、必ず松原まで連絡をしてください。
- ・シラバスの内容は、参加者の人数や進捗状況に応じて調整・変更されることがあります。
- ・そのほか、履修をする上で気になることがあれば、松原まで遠慮なく連絡をください。

**予習・復習**

予習：次回演習で扱うパートを読み、感想や気になったことをまとめる。発表担当者は発表資料を作成する。

復習：演習で扱ったパートの内容を活かして大学生活を送る。

**評価方法**

- ・発表（40%）、ディスカッションへの参加（30%）、最終レポート（30%）で評価します。

**テキスト**

- ・教科書名：大学生 学びのハンドブック [5訂版]
- ・著者名：世界思想社編集部 編
- ・出版社名：世界思想社
- ・出版年 (ISBN)：978-4-790-71749-2



**授業概要**

大学に入学して、これからどう大学生活を有意義に過ごしていくかを考えることが必要です。これからの4年間に自分自身を見つめて、社会や企業や情報技術の知識を身に付けながら、自分が学ぶべきことを考えます。また、この大学には、データサイエンス科目群があり、私はこの科目を担当していますので、興味のある学生向けに、ITC や AI (人工知能) の勉強に必要な知識、技能など基本となることを座学と演習で学びます。「演習」(ゼミ、ゼミナール) というのは大学で初めて登場する授業形式です。学生が自ら学習活動を行う授業になります。グループ学習を取り入れて、学生には、それぞれ発表する機会を作ります。課題提出、発表などを楽しく行って行きます。(PC 演習室を使用する予定です)

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	自己紹介 (自分で説明する資料を作成してくる)
第 3 回	大学生活で何をしたいかを考える
第 4 回	情報収集(書籍) …学内図書館ツアー予定、文献ネット検索
第 5 回	テーマの決め方と情報収集の方法
第 6 回	レポートの書き方
第 7 回	最近の政治経済の記事、注目のテーマを新聞、雑誌、書籍などから選び発表するー1
第 8 回	最近、ITC や AI のテーマを新聞、雑誌、書籍などから選び発表するー2
第 9 回	プレゼンテーションとは
第 10 回	社会の変化と情報通信技術について考える
第 11 回	ITC (情報通信技術) を使った新しいビジネスを調べる
第 12 回	情報通信技術を使った新しいビジネス事例を調査する
第 13 回	各自が選択した新しいビジネス事例をレポートにまとめる
第 14 回	新しいビジネスモデルについて発表する
第 15 回	グループワークとして、新しいビジネスモデルを考える
第 16 回	グループ毎に発表し、質疑応答する

**到達目標**

本演習の目的は、以下の通りである。

1. 大学生として大学で学ぶ意味や目的を考え、行動することができる
2. 学習する基礎となる思考力、情報収集力、読解力、記述力、プレゼンテーション能力を高める。
3. 新聞、雑誌、書籍、インターネットなどから情報を収集し、情報を読みこなすことによって、経済や会社がどのような原理や原則で動いているか、人はどう判断するかなどについて知る能力を蓄うことができる。

**履修上の注意**

- 1) 病気などの場合を除いて、毎回欠かさず出席してください。欠席の場合は、メールで事前に連絡してください。遅刻の場合は理由を説明してください。
- 2) 演習のメンバーの意見を理解し、それに対して自分の考えを述べられるように心掛けてください。
- 3) パソコンの Word, Excel, PowerPoint, メールを使用する。

**予習・復習**

- ・事前に配布された資料はよく読んで理解すること。
- ・NHK 高校講座「政治経済」「数学Ⅱ」を事前に学習することが望ましい。

**評価方法**

小テスト、レポート、発表等への配点が80%、授業での発言、貢献等の積極性が20%の配点です。

**テキスト**

- ・テキストは使用せず、適宜講義資料、新聞記事、雑誌記事などを配布します。

**授業概要**

大学生が卒業時までには身につけておきたい態度や能力として「社会人基礎力」という考え方が参考になります。「社会人基礎力」とは、社会で活躍している人たちが身につけている態度や能力の基礎部分を整理した考え方ですが、大きく捉えると、考え抜く力・チームで働く力・前に踏み出す力の3つから成ります。そして、これらは、高校生までよりも大学生においてより一層重視されるようになる力でもあります。

そこで、この演習では、これらの能力等について学んでもらい、その後、皆さんの関心のあることについて話し合い、チームで調査するテーマを決め、実際に調査し、考察し、発表するという一連の流れを体験してもらうことで、考え抜く力（課題発見能力・考察能力・課題解決能力）、チームで働く力（コミュニケーション能力・協調性）、前に踏み出す力（主体性・実行力・プレゼンテーション能力）を伸ばしていきます。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション（教養演習Ⅰの目標と進め方）
第 2 回	自己紹介・大学生生活と大学での学び（社会人基礎力等）
第 3 回	課題発見と課題解決、コラボレーション
第 4 回	考察の進め方・調査テーマの話し合い①
第 5 回	調査テーマの話し合い②（テーマ決定）・班分け
第 6 回	テーマについての班ごとの話し合い・図書館ツアー
第 7 回	調査計画立案（調査内容・調査スケジュール・分担）
第 8 回	文章表現①（構成・文章）
第 9 回	プレゼンテーションの方法①（相手にどう伝える）
第 10 回	プレゼンテーションの方法②（表現上の技法）
第 11 回	中間発表
第 12 回	文章表現②（引用・参考文献）
第 13 回	文章表現③（著作権）
第 14 回	プレゼンテーションの方法③（発表の仕方）
第 15 回	まとめ作業
第 16 回	最終発表

**到達目標**

- ・大学時代に身につけておきたい態度や能力とは何であるかについて理解できる。
- ・考え抜く力・チームで働く力・前に踏み出す力を高校生の段階から大学生の段階へとレベルアップできる。
- ・文章表現・プレゼンテーション方法について理解し、一定程度使いこなすことができる。

**履修上の注意**

「社会人基礎力」育成のプロセスを1年次に経験した学生は就活において高く評価されるということが分かっています。この演習ではそのとても実績のある手法でゼミを行います。関心のある方の参加を求めます。なお、チームでの活動になりますので、お互いに協力し、積極的に参加するという姿勢がとても大切です。

**予習・復習**

予習：事前に出された課題を行ってください。  
 チームで決めた準備をしておいてください。  
 復習：演習内容を復習し、チームで決めた調査等を共同で実施してください。

**評価方法**

演習への取り組み姿勢（20点）、中間発表（30点）、最終発表（50点）で総合的に評価します。合計100点のうち51点以上を取れば合格となります。ただし、出席回数が10回に満たない人は成績評価できませんので注意してください。また、チームでの活動ですが、発表は全員行います。

**テキスト**

教科書は使いません。  
 学習用の資料を配布します。

**授業概要**

1年次の教養演習は、2, 3, 4年次と徐々に専門的な内容に進んでゆく最初の段階の演習である。「演習」とは、何かのテーマについて教員から講義を受けて理解して終わるものではなく、学生自らが何らかの目的やテーマに対して、何かの行動を起こして初めて成り立つものであると考えている。そこで、教養演習 I では最初に社会に出るために、就職するためにどのような人が求められているかを理解することにはじまり、そのための演習を行う。その際の題材は、社会的な課題にかかわる資料を考えている。

大学4年間でどのように過ごし、どのような就職を目指すのかは、常に意識してもらうように情報提供し、演習してもらうつもりである。

**授業計画**

第1回	ガイダンス・キャリアとは？
第2回	卒業して、その後に働く意味を考える
第3回	社会人基礎力の理解する
第4回	社会人基礎力を身につけるための方法を考える
第5回	資料（例：日本の人口・都市）を使用した演習
第6回	資料（例：日本の人口・世帯）
第7回	資料（例：日本の人口・寿命）
第8回	資料（例：日本の経済）
第9回	資料（例：日本の産業）
第10回	資料（例：日本の生活①）
第11回	資料（例：日本の生活②）
第12回	資料（例：日本のエネルギー）
第13回	調べてきた内容を報告する①
第14回	調べてきた内容を報告する②
第15回	まとめ
第16回	定期試験（または定期試験に代わるレポート）

\*人数等により進度と内容は随時調整します。上記は例示であり、資料は適宜、時事的なものに変更します。

**到達目標**

- ・テキスト等の資料の内容を適切にまとめることができる。
- ・自分の意見を適切な文章で正しく伝えることができる。
- ・自分の意見を発言で他人に正しく伝えることができる。

**履修上の注意**

テーマは上記のとおりだが、到達目標に示したように、講義ではなく演習なので、聞くだけの内容を考えていない。課題やグループワークも含めて受講者が積極的に発言等をしてもらう。

また、就職活動における「教養」は、上記のような時事についての理解のみならず、適性試験（言語・非言語）という形式で問われることが多いため、適宜、そちらも指導する。

**予習・復習**

授業内容に応じた課題を予習し、他人の意見等を聞いてまとめる復習を予定している。

**評価方法**

課題を含む平常点45%・定期試験（または定期試験に代わるレポート）55%程度で評価する。  
なお、既定の出席回数に満たない場合には、原則として単位を認定しない

**テキスト**

未定。  
参考文献は適宜紹介する。

**授業概要**

大学に入学して最初の演習として、これから4年間の大学での学修活動、さらには社会に出たあとにも必要とされる、主体性、コミュニケーション能力、情報収集力、課題発見力（総称して「社会人基礎力」）などを伸ばすことを目的としたアクティブ・ラーニングを実践する。PBL（Project-Based Learning）形式でのケースを通じた問題解決を繰り返すことで、リテラシー（知識活用）とコンピテンシー（行動実践）と呼ばれるジェネリックスキルを育成する。また、大学や社会で求められる文章を書くための「アカデミック・ライティング」の基礎を学ぶことで、言いたいことを効果的に読み手に伝える技法を身につけることも目的とする。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	軽く議論してみよう
第 3 回	本格的に議論してみよう
第 4 回	本格的に議論してみよう（発表）
第 5 回	情報を集める
第 6 回	情報を集める（発表）
第 7 回	個性を活かす
第 8 回	前半ふりかえり
第 9 回	レポートについて学ぶ(1)
第 10 回	レポートについて学ぶ(2)
第 11 回	情報を分析する
第 12 回	情報を分析する（発表）
第 13 回	問題を提起する
第 14 回	問題を指摘する（発表）
第 15 回	後半ふりかえり
第 16 回	総括

**到達目標**

- (1) 自分から意欲的に物事に取り組むことができる
- (2) 自分の意見を論理的に人に伝えることができる
- (3) 課題を自ら発見し、チームで協働することで解決ができる
- (4) 情報を収集・整理・分析し、問題解決に結びつけることができる
- (5) 大学や社会で求められる水準のレポートを書くことができる

**履修上の注意**

この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかり持ち、ジェネリックスキルを習得することにある。受け身の「座学形式の講義」ではなく、学生が自ら参加し、議論しながら考える能力を伸ばしていくことを最も重視する。事前連絡なしの欠席を厳禁とし、疾病・負傷等による欠席は、必ず授業開始前に連絡する。

**予習・復習**

毎回の授業の中で、次回までに進めておくべき事前・事後学習を指示する。事前学習はグループで発表する準備（打ち合わせ）が主で、グループ内での打ち合わせ時間調整も必要である。学習に取り組む時間の目安は1回あたり事前90分・事後60分である。

**評価方法**

演習への取り組み姿勢（20%）、4つの発表（各20%）で総合的に評価する。ただし、出席回数が10回に満たない場合は成績評価されない。

**テキスト**

指定しない

**授業概要**

経済経営学部において4年間専門分野で勉学するために役立つ、経済・経営分野の興味のある分野に関して、新聞、雑誌、書籍などから題材を求め、受講生の理解を深めるための勉学を進める。

また、興味がある分野の企業活動を通して問題・課題を抽出し、自分で調べて分析することで、解決策を導き出すといった考えるという勉強のやり方を身に付けると共に、調査・分析した結果はレポートにまとめて、授業の中で発表することで、大学生としての基礎力を修得することを目的としている。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション
第2回	大学で学ぶとは何か
第3回	大学生の基礎
第4回	レポートの書き方
第5回	論文の書き方
第6回	先行研究の調査
第7回	関心のある企業を選択
第8回	関心のある企業の調査項目
第9回	企業の社会的役割に関するレポートの発表と討議
第10回	企業の経営と組織に関するレポートの発表と討議
第11回	企業の経営分析に関するレポートの発表と討議
第12回	経済新聞、ビジネス雑誌の読み方
第13回	経済新聞、ビジネス雑誌のトピックに関するレポートの発表と討議
第14回	課題に対するレポートの発表と討議
第15回	課題に対するレポートの修正と討議
第16回	定期試験

**到達目標**

- ・大学生としての基礎力である「読む、書く、伝える、話す」を修得することができる。
- ・問題、課題を抽出し解決する能力を身につけることができる。
- ・複数の企業の経営内容を比較し、レポートにまとめることで調査・分析力を修得することができる。
- ・レポートの発表や質疑応答を通じて、ファシリテーターとしてのノウハウを身につけることができる。

**履修上の注意**

- ・問題意識をもって質問する、あるいはグループワークにおいて、積極的に発言して議論すること。
- ・予習、復習をきちんと行い、毎回出席すること。
- ・レポートの発表者以外の学生は質問或いは感想を述べるなど、必ず発言すること。

**予習・復習**

- ・事前に配布された資料はよく読んで理解すること。
- ・授業中に指示されたレポートは必ず提出すること。
- ・毎回授業後は復習することで、理解を深めること。

**評価方法**

- ・授業への参加意欲(20%)、課題提出(30%)、定期試験(50%)で総合評価します。
- ・授業態度が不良の場合は「不可」とします。

**テキスト**

- ・テキストは使用せず、適宜講義資料、新聞記事、雑誌記事などを配布します。

## 授業概要

教養演習Ⅰでは大学でのこれからの4年間に自分自身で学ぶべきことを考えていくように指導します。加えて大学での勉学に必要な知識、技能、学習態度を演習形式で指導します。

「演習」（ゼミ、ゼミナール）というのは大学で初めて登場する授業形式です。「演習」は座学形式の「講義」ではなく教員の指導の下で学生が自ら学習活動を行う授業になります。したがって学生の毎回の授業参加、課題提出、発表、質疑・討論が前提になっています。「演習」は学生同士が議論を通じて発言する能力や考える能力を伸ばしていく「演習」です。授業への主体的かつ積極的な姿勢が要求されます。

授業内容の詳細は、以下の授業計画です。しかしこの演習を履修登録した受講生の関心や研究希望の分野、学習能力を理解した後に決めます（したがって変更になる可能性があります）。

## 授業計画

第1回	授業ガイダンス 授業の内容と課題「新聞記事のスクラップ・ブック（+コメント）」の説明等
第2回	自己紹介（与えられた時間内で初めての人に自分を紹介し、アピールする訓練）
第3回	情報収集（新聞、雑誌、テレビ等のメディア）と注意点①
第4回	情報収集（パソコンやスマホ）と注意点②
第5回	ブックレポート（図書要約）の説明
第6回	情報収集（書籍）…学内図書館ツアー予定、文献ネット検索
第7回	本の読み方、買い方、使い方①
第8回	本の読み方、買い方、使い方②
第9回	「新聞記事のスクラップ・ブック」の発表①
第10回	文章を書く、文章が書けるといふ学卒の人生
第11回	文章の表現技術…文章での1行の文字数、一段落の行数、番号の順番ルール（Ⅰ→1→（1）→①→イ）など
第12回	文章の約束…参考文献、参照文献引用、コピペ（Copy and Paste）のルール。著作権、剽窃。
第13回	プレゼンテーション（準備、資料作成、発表の方法の技法）
第14回	ブックレポートの発表
第15回	「新聞記事のスクラップ・ブック」の発表②
第16回	総括 修正後のブックレポートの提出。

## 到達目標

文章のルール、レポートの書き方、新聞の読み方、レジュメの書き方、発表の仕方など大学時代に必要な基礎能力を取得できる。

## 履修上の注意

- ・授業で提示する課題「新聞記事のスクラップ・ブック+コメント」と「ブックレポート（図書要約）」を定められた指定日（複数回ある）に提出のこと。その作業、訓練を通じて自分の能力を伸ばしていく。
- ・授業の進捗状況、受講生の理解度、関心度に応じてシラバスの授業計画は変更する場合があります。

## 予習・復習

- ① 次回授業での発表用意
- ② 「新聞記事のスクラップ・ブック+コメント」と「ブックレポート（図書要約）」

## 評価方法

- ・新聞スクラップ・ブックの発表（20%×2）、ブックレポートの発表と提出（30%）、受講態度（授業への貢献）30%を予定している。詳細は授業で説明する。
- ・なお、毎回の発表に対してはフロアの学生（発表者以外の学生）による評価が行われる。しかしこれは発表した学生が自分を成長させていくための参考評価データとし、成績評価では勘案しない。

## テキスト

授業時に紹介する。新聞（webでも代替可）とブックレポートでの本は読む。

**授業概要**

教養演習の課題は、大学で学ぶ目標をしっかりと持つこと、学ぶ楽しさを知ること、及び、読むこと、調べること、書くこと、報告することなど今後必要なスキルを修得することにある。大学で学ぶには、自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つことが大事になる。

**授業計画**

第1回	概要
第2回	大学を知る
第3回	ノートのとり方を学ぶ
第4回	テキストの読み方を学ぶ
第5回	レポート作成法を学ぶ
第6回	パソコンやスマホで情報収集する
第7回	新聞で情報収集する
第8回	時事問題を考える
第9回	図書館ツアーの実施、ネット検索などの方法を学ぶ
第10回	議論の仕方を学ぶ
第11回	プレゼンテーション①準備
第12回	プレゼンテーション②資料作成
第13回	プレゼンテーション③発表
第14回	プレゼンテーション④発表
第15回	レポート作成
第16回	期末テスト

**到達目標**

- 大学の施設・設備を有効に活用できる。
- 自分の課題について調べ、意見をまとめ、表現することができる。
- 政治や経済の時事問題が企業人・社会人にとって不可欠の問題であることを知ることができる。
- 大学での学び方を体得できる。

**履修上の注意**

1年次の学生は全員履修である。この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかりと持つことにある。このため、よく調べて自分の意見をまとめ、授業時間内には仲間同士で積極的に議論して欲しい。なお、学外活動を行う場合がある

**予習・復習**

予習・復習は積極的に行い、授業中に指示された課題は必ず提出すること。

**評価方法**

授業への取組み（30%）、課題の提出状況（30%）、レポートまたは試験（40%）により総合的に評価する

**テキスト**

指定しない